

クーロン (C.A. Coulomb, 1736 - 1806)

クーロンは、フランスのアングレームに生まれ、パリで初等教育を受けた後に工兵隊に入隊。マルチニク島勤務の9年間、建設作業に携わり、材料の機械的性質と構造力学を研究しました。特に有名な論文「構造力学における最大最小則の応用問題」を1773年フランス科学アカデミーに提出しています。

1779年、羅針儀をつくる非常に優れた方法に対してアカデミーから賞を受けています。1781年には、物体間の摩擦の実験をまとめた「簡単な機械の理論」という論文でアカデミー賞を得ています。1781年以降、アカデミー会

員に選ばれ、その後、電気や磁気の研究を行っています。ここで、電気や磁気による微少な力を測定するため、非常に鋭敏なねじり振子をつくり、これとともに、針金のねじり抵抗を研究しました。クーロンの摩擦の法則として（アモンソン-クーロンの法則ともいいます）、

第1法則 摩擦力は荷重に比例する。

第2法則 摩擦力は見かけの接触面積に依存しない。

第3法則 摩擦力はすべり速度に依存しない。

は有名で、現在も用いられています。

((財)日本自動車研究所 山崎俊一)